

令和4年度 事業報告

社会福祉法人
県西福祉会

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針

事業所の概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~11
6. 県西福祉センターの状況	... 12~13
7. フレアデスの状況	... 14~16
8. フレアデスホームの状況	... 16
9. ふくらの販売状況	... 17
10. ボランティア活動の状況	... 18
11. 健康管理の状況	... 18~19
12. 給食の状況	... 20
13. 権利擁護の状況	... 21
14. 安全管理の状況	... 22
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 23
16. 広報の状況	... 23
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 24
18. 施設整備等	... 24
令和4年度 部門別重点実施事項実施報告	... 25~26

※文中の表現

- ・新型コロナウイルス = コロナウイルス
- ・コロナウイルス感染予防対策 = 感染対策

★経営方針

《 使命 》 職員の情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私たちは、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」「画一」「指示」「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者として「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉フロ集団への進化

地域福祉の活性化

★事業所の概要

令和5年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設) (介護保険通所施設)	フレアデス (障害者通所施設)	ふくらん (障害者通所施設)
施設入所支援 60名	生活介護 25名	生活介護 20名	就労B型 30名
生活介護 60名	通所介護 25名	日中一時 15名	フレアデスホーム (障害者グループホーム)
短期入所 6名	就労B型 15名	相談支援	共同生活援助 32名
	相談支援		

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	県西福祉センター 生活介護事業・相談支援事業 開始
平成20年 4月	足柄療護園 障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	県西福祉センター 就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	フレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助・日中一時)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / フレアデス福泉事業所開設
平成25年 4月	フレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	フレアデス福泉「ふくらん」開設
平成26年 4月	フレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	フレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設
令和 4年 4月	県西福祉センター 共生型通所介護事業開始
令和 5年 4月	フレアデス生活介護棟開設 / ふくらん事業所単独化

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月27日	第1号議案 令和3年度事業報告(案)について 第2号議案 令和3年度決算報告(案)について 第3号議案 諸規程の改正(案)について 第4号議案 プレアデス生活介護棟の整備資金借入計画(案)について 第5号議案 令和4年度第1回評議員会の開催(案)について	全員出席
第2回	10月21日	第1号議案 令和4年度 事業中間報告(案)について 第2号議案 令和4年度 資金収支中間報告(案)について 第3号議案 運営規程の改正(案)について 第4号議案 会社役員賠償責任保険の加入について 第5号議案 令和4年度第2回評議員会の開催(案)について	全員出席
第3回	1月20日	第1号議案 理事長選定について	全員出席
第4回	3月17日	第1号議案 令和4年度 資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度 事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度 資金収支予算(案)について 第4号議案 プレアデスの新規指定(案)について 第5号議案 諸規程の改正(案)について 第6号議案 令和4年度 第3回評議員会の開催(案)について	全員出席

(2) 評議員会

第1回	6月17日	第1号議案 令和3年度事業報告(案)について 第2号議案 令和3年度決算報告(案)について ①諸規程の改正について ②プレアデス生活介護棟の整備資金借入計画等について	7名出席 1名欠席
第2回	11月4日	第1号議案 令和4年度事業中間報告(案)について 第2号議案 令和4年度資金収支中間報告(案)について ①諸規程の改正について ②プレアデス新棟建設資金計画について	7名出席 1名欠席
第3回	3月31日	第1号議案 令和4年度資金収支補正予算(案)について 第2号議案 令和5年度事業計画(案)について 第3号議案 令和5年度資金収支予算(案)について ①理事長交代(選定)について ②プレアデスの新規指定について ③諸規程の改正について	7名出席 1名欠席

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員)

第1回	7月25日	プレアデス生活介護棟新築工事の進捗状況について プレアデス生活介護棟新築工事に係る入札手順について プレアデス生活介護棟工事の日程確認について	全員出席
第2回	9月2日	入札・開札の実施	全員出席 小林監事
第3回	9月6日	プレアデス生活介護棟新築工事に係る入札手順について	全員出席
第4回	9月26日	入札・開札の実施	全員出席 小林監事

※建物引渡し、完成検査及び確認は3月17日の理事会終了後、理事全員にて行った。

2. 主要行事

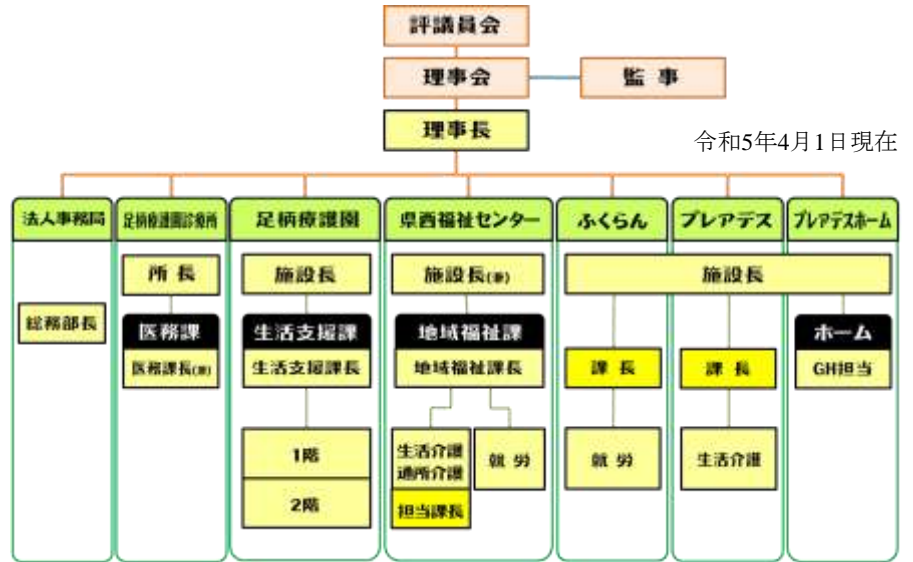
月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	スポーツ大会【足】 避難訓練【プ】 つぶらの公園外出【プ】	外国人技能実習生入国	
5	健康診断【足】【GH】 避難訓練【GH】 ひのき湯【足】 菖蒲湯【GH】	健康診断／ストレスチェック 外国人技能実習生配属 監事監査 理事会	家族会総会〔書面開催〕 北里大学実習受入
6	プレアデス祭→中止 避難訓練【足】【セ】【GH】 お散歩外出【プ】	プレアデス祭→中止 評議員会 職員会議	プレアデス祭→中止 大井高校2年生実習受入
7	参院選不在者投票【足】 スポーツ大会【足】 / 歯科検診【足】 七夕行事【足】【セ】【GH】	「ふくらん」9周年 避難訓練【GH】	大井高校3年生実習受入 ふくらん9周年いずみ送迎
8	すいか割り【足】 プレアデス夏祭り【プ】 薄荷湯【GH】		小田原短期大学実習受入 鎌倉女子短期大学実習受入
9	納涼会【足】 カラオケ大会【足】 施設外活動〔ズーラシア〕【GH】 コロナワクチン接種4回目	避難訓練【足&セ&GH】 職員会議【全体】 コロナワクチン接種4回目	
10	秋まつり→中止 作品コンテスト【足・西】 お散歩外出【プ】 日帰り外出【GH】 / 生姜湯【GH】 避難訓練【足】【セ】【GH】	秋まつり→中止 理事会 避難訓練【プ】【GH】	秋まつり→中止
11	インフルエンザ予防接種・健康診断【足・GH】 焼き芋会【足】 フラワーガーデン外出【セ】 紅葉見学【プ】	評議員会 評価面接 職員健康診断	小田原短期大学利用者講演
12	クリスマス会【足】【セ】【プ】【GH】 仕事納め【西】 ゆず湯【GH】	避難訓練【足】	大掃除【GH】
1	ゆず湯【足】 成人を祝う会【プ】 利用者研修【プ】		
2	節分行事【セ】 / おしるこ会【足】 卓上大会【足】 / カラオケ大会【足】 バレンタインイベント【プ】 コロナワクチン接種5回目	理事会 コロナワクチン接種5回目	
3	カラオケ大会【足】 / 映画観賞会【足】 夜間想定避難訓練【足】 ひなまつり【プ】 / 自分発表会【プ】 よもぎ湯【GH】	理事会 評議員会 職員会議 夜間想定避難訓練【足】	プレアデス(生駒)内覧会 ちいきふくし博【足&セ&プ】

【足】足柄療護園・【セ】県西福祉センター・【プ】プレアデス・【GH】プレアデスホーム

3.組織体制

(1) 組織体制

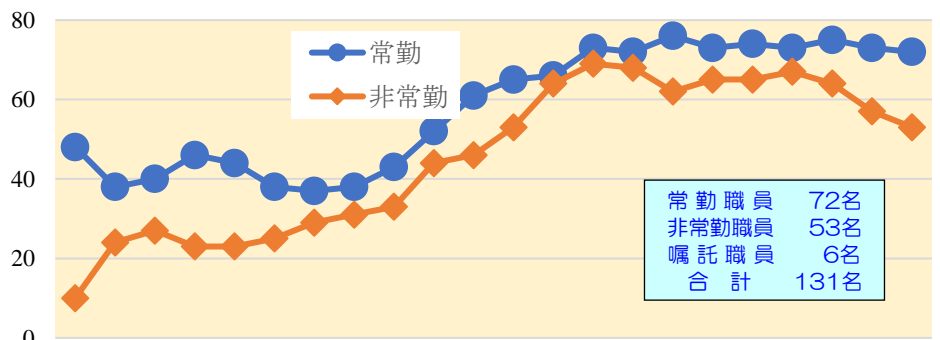
令和5年4月より、プレアデスを多機能事業所から、プレアデス及びふくらの2つの単独事業所として独立できるように準備をすすめた。



(2) 職員数

常勤職員の退職者は4名、採用者1名で、非常勤職員を含めた職員総数は年度末で131名であった。

モンゴルからの技能実習生2名は非常勤職員として計上した。



職員数の推移(3月31日現在の職員数)

(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		県西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	1名		1名		1名		2名(兼務)	
医師		6名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	3名	7名		1名		1名(兼務)		
生活支援員	29名	10名	9名	5名	17名(兼務)	8名	11名(兼務)	1名
指導員			1名		1名			
訓練担当	1名(兼務)	2名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							11名(兼務)	12名
その他	4名	6名		1名				
実職員数	39名	31名	12名	7名	20名	8名	1名	13名

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

前年度2月より開始した処遇改善臨時特例交付金及び10月より切り替わったベースアップ等加算による処遇改善の実施により、7月の昇給については見送った。また、10月には最低賃金改定にかかわる対応を行った。

労働法規の改正に基づき、月間60時間以上の残業の規程等の改正を行った。

(2) 職員研修

コロナウイルスの影響で、研修日程を延期するなど感染対策を行いつつ、おおむね計画通りに階層別に施設内研修を実施した。外部講師による感染症スペシャリスト研修(指名6名)及びふくらんにおいては、食中毒を含めたHACCP研修を実施した。



感染症スペシャリスト養成研修

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
4月6日	基本的なオムツのあて方	日本製紙クレシア(株)	新人	18
5月31日	発語・構音障害について	猪川言語聴覚士	新人	22
6月22日	防災研修	山岸施設長	全体	28
7月15日	虐待防止	山岸施設長	中堅	45
9月29日	感染対策について	地域福祉課 奈良場課長	全体	33
11月21日	ロボクッション	アビリティーズケアネット 櫻井様	中堅	15
3月1日	権利擁護	あしがら成年後見センター 平川様	全体	30
3月29日	救命救急～AEDの使い方～	日本光電工業㈱ 清水様	全体	28
3月30日	ボディメカニクス	大野理学療法士	全体	18

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
1月18日	自閉症について	諏訪部臨床心理士	49名
1月23日	交通安全	松田警察署	28名
2月9日	アルリットについて	山岸施設長	23名

③施設外自己啓発(SDS)

言語聴覚学会、摂食嚥下リハ学会参加の交通費の支援を行った。

④施設外研修受講状況 (18企画延べ31名参加)

主な外部研修参加状況

内容	参加者	主催
全身協 スキルアップ研修会	鈴木匠	全身協
サービス管理責任者 基礎研修	廣石覚之	神奈川県
サービス管理責任者 実践研修	奈良場純一	神奈川県
サービス管理責任者 更新研修	山口、増田、金子祐、大澤	神奈川県
相談支援従事者現任研修	石川、山口、金子祐、増田	神奈川県
強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】	月村充男、樽澤美春、松橋仁江	神奈川県他
初任者キャリアパス対応生涯研修	竹井美吹、日吉陸	神奈川県社協
新任福祉・介護施設等職員合同交流・研修会	日吉陸	神奈川県社協
社会福祉基礎研修(学び直し編)	金子亜美、大塚望	神奈川県社協
高齢者の摂食嚥下障害支援研修	宮崎健	保健福祉大学
佐藤芳直 人材化セミナー	竹井美吹、日吉陸	SYワークス

(3) 会議・委員会

感染対策を徹底しつつ、感染状況に応じては開催の延期や中止を判断し会議を開催した。オンライン等を活用した参加も取り入れた。各委員会の活動を通じ、リーダーシップの発揮をはじめとした、職員の能力開発と組織運営への参加をはかった。



職員会議

会議・委員会実施状況

名称	内容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	2回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	5回	理事長、柴田、田中、山岸、平田、行待、佐々木、大賀、根本
わくいき委員会 (日中活動)	クラブ活動や施設外活動、イベント等の企画・検討を通じ、充実した生活の実現を目指す	4回	◎鈴木眞、宮崎、西川晃、金子、森本、真田、中館、竹井、神羽
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	4回	◎岩田、山岸里、柘植、藤田、金子、岸、鍵和田、(石川、山口、廣石)
権利擁護委員会	成年後見制度利用状況の把握、身体拘束の把握、虐待が疑われるケースの検証等を行う。	3回	◎山岸、柴田、平田、行待、石川、佐々木、山口、廣石
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と事故の防止をはかる。各種マニュアルの整備。	4回	◎迫田、石川、佐々木、鈴木、山岸里、西川奈、武藤、柘植、増田、奈良場、諸星、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティアの誘致、受入れ及び対応にかかわることについて検討する	2回	◎阿部、阿部(礼)、森本、加藤、石井、神羽、橋本、新井、大熊
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	4回	◎丹羽、府川、阿部(礼)、真田、岸、安武、中館、七海、田淵、大熊
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	9回	◎田中、野村Dr.、森本、西川、岩田、真田、谷口、根本NS、(山岸)
広報委員会	広報誌『やまぶき』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	4回	◎秋山、西川、太田、竹井、中館、猪川、湯田、笹尾、
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	11回	◎増田、山岸(直)、石川、府川、宮崎、谷口、NS、(佐々木・山口・廣石)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援を行う	4回	◎猪川、石川、山口、廣石、杉山、西山NS、村田、(山岸、平田、佐々木)、日清医療食品

(4) 労働衛生

健康診断は、5月11日に職員111名に対し行い、所見のある職員が83名(医師の指示42名)おり、医師による診断をすすめた。夜勤従事者は11月～12月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、健康保険加入職員37名に対してストレスチェックを実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

(5) 委員会活動報告

委員会名	委員長	実施報告
わくいき (日中活動) 委員会	鈴木	感染対策により新たな活動やぶらりランチ等の実施はできなかった。 感染対策により制限のある中で利用者の方に楽しんでいただく活動について検討を行った。 感染の状況で中止や内容の変更を行うなどしたものもあり、その中で今後も、より利用者の要望に沿い充実した施設生活を送る事ができるよう努めた。
さくさく (業務改善) 委員会	岩田	令和3年度から検討している、生活日誌のペーパーレス化を3ヶ月実施をしたが、確認作業の複雑さが目立ち、負担軽減などの効果が少なく、今回の方法は見送ることとなった。オムツを使用する利用者が増え、使用方法を再検討した。ナースコールシステムについては、各フロアにてアンケートを実施。更新までは至っておらず、次年度以降に導入機種の検討等を行なうこととした。
リスク マネジメント 委員会	迫田	令和3年度はリスクマネジメント報告書、ヒヤットと共有書の提出が少ない傾向があったため、各部署へ周知を行い、徹底させた結果、今年度はリスクマネジメント報告書、ヒヤットの件数は増加した。今後もリスクを起こさないためのヒヤットと共有という意識づけ強化に取り組んで行くこととした。
権利擁護 委員会	山岸	虐待ケースの検討、身体拘束解除に向けた取り組み、成年後見制度利用促進、職員人権チェックの実施など権利擁護促進に取り組んだ。 身体拘束解除に向け、3名5項目について解除することができた。 成年後見制度については、4名の方の利用申請をすすめた。 職員人権チェックを実施し、結果は職員会議にて周知した。
ボランティア 委員会	阿部	コロナ禍により、思う様にイベントの開催、ボランティアの誘致を行なう事ができなかったが、感染対策を実施し少人数での開催・リモートも含めながらイベントを開催することができた。今後、以前のように社協や学生ボランティアへ募集を再開しボランティア誘致を再開できるようポスター配布等で都度、募集を行ない感染対策に気を付けながらイベントを実施できるよう努めていく。
研修委員会	丹羽	コロナ発生による研修の延期があったが、計画通りに研修を開催した。 今後も事前に職員へ研修内容に関するアンケートを実施し、要望に合わせた研修内容を検討・開催していく。より参加しやすいよう、ZOOMでの参加型を実施し、参加率の向上を目指す。職員が研修講師を担当すること通してスキルアップに繋げていきたい。
衛生委員会	田中	2回の定期巡回を実施し、職場環境改善に向け修繕が必要な物について修理依頼をおこなった。 ストレスチェックの結果を確認し、各事業所の健全化を目指せるように、情報提供を促した。コロナ等より一層健康管理への意識が高まるような情報提供を、各部署へ行った。
広報委員会	秋山	年間を通してやまぶきの発行に努めた。 コロナ禍において実施したイベントなどを紹介しつつ、前年度とは違う視点で、利用者個別支援にかかわる活動の様子や、県西福祉センター、プレアデス・ふくらん共にアイデアを出し、掲載することで年3回発行した。

委員会活動報告

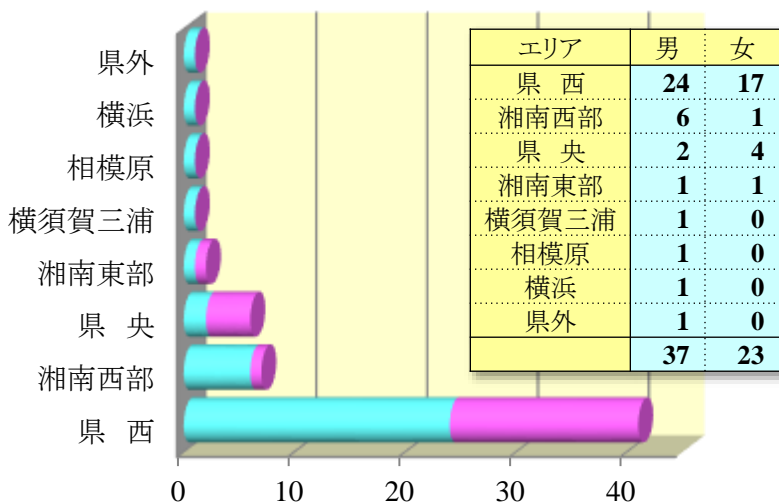
5. 足柄療護園の状況

(1) 施設入所支援

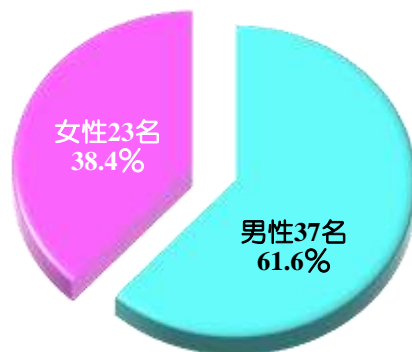
58名でスタートし医療面での長期入院が必要となるなど3名が退所し、5名が新たに入所となり、年度末では60名となった。感染対策を徹底しながらの運営となったが、8月、10月、12月にコロナ感染症が発生した。特に12月は入所者24名(職員14名)が感染するクラスターとなったが、入院や重症化することなく収束できた。

① 利用者の状況 (年度末現在；入所者数60名)

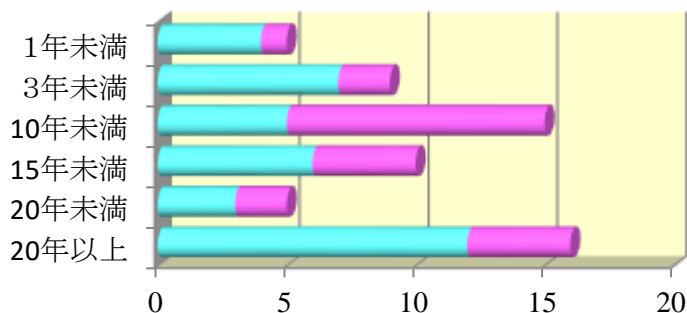
A. 地域別入所者数：県西地区が41名(68.3%)を占める。



男性が37名(61.6%)。

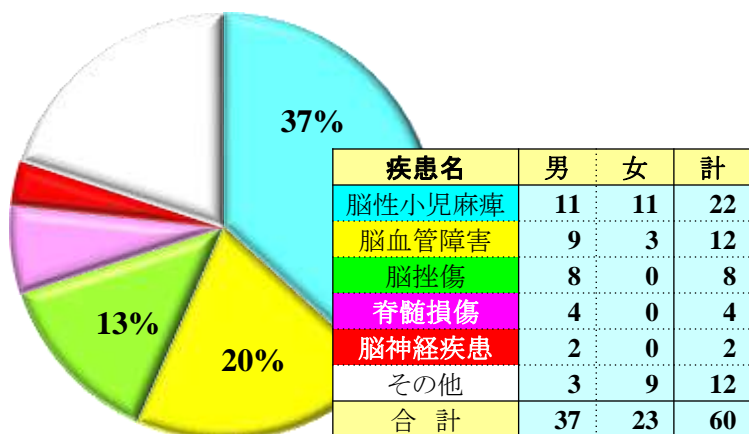


B. 在所期間：20年を超えた方が16名で26.7%。



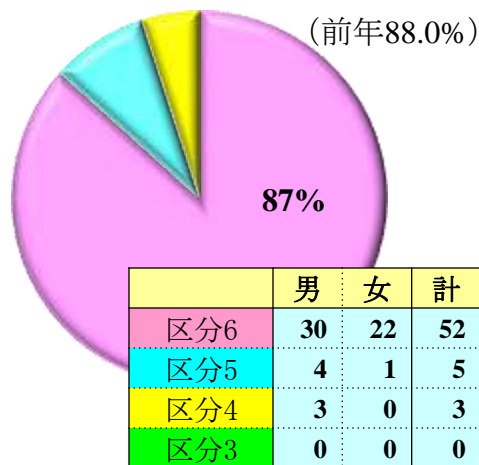
	男	女	計
1年未満	4	1	5
3年未満	7	2	9
10年未満	5	10	15
15年未満	6	4	10
20年未満	3	2	5
20年以上	12	4	16

C. 疾患別原因：脳性マヒの方が36.7%を占める。

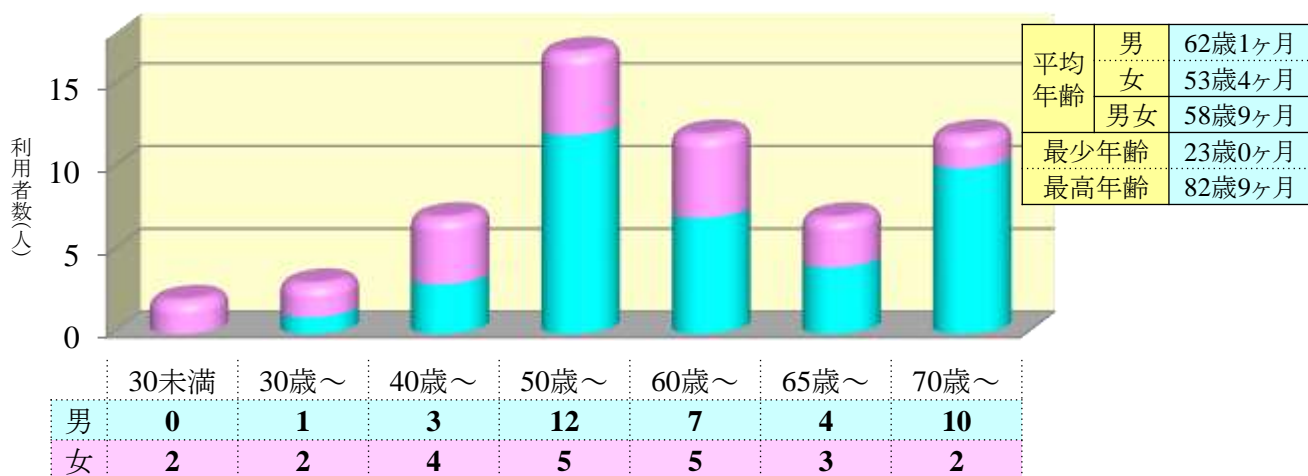


D. 障害支援区分：区分6 が87.6%

(前年88.0%)。



E.年齢別：平均年齢は58歳。70歳以上は12名。

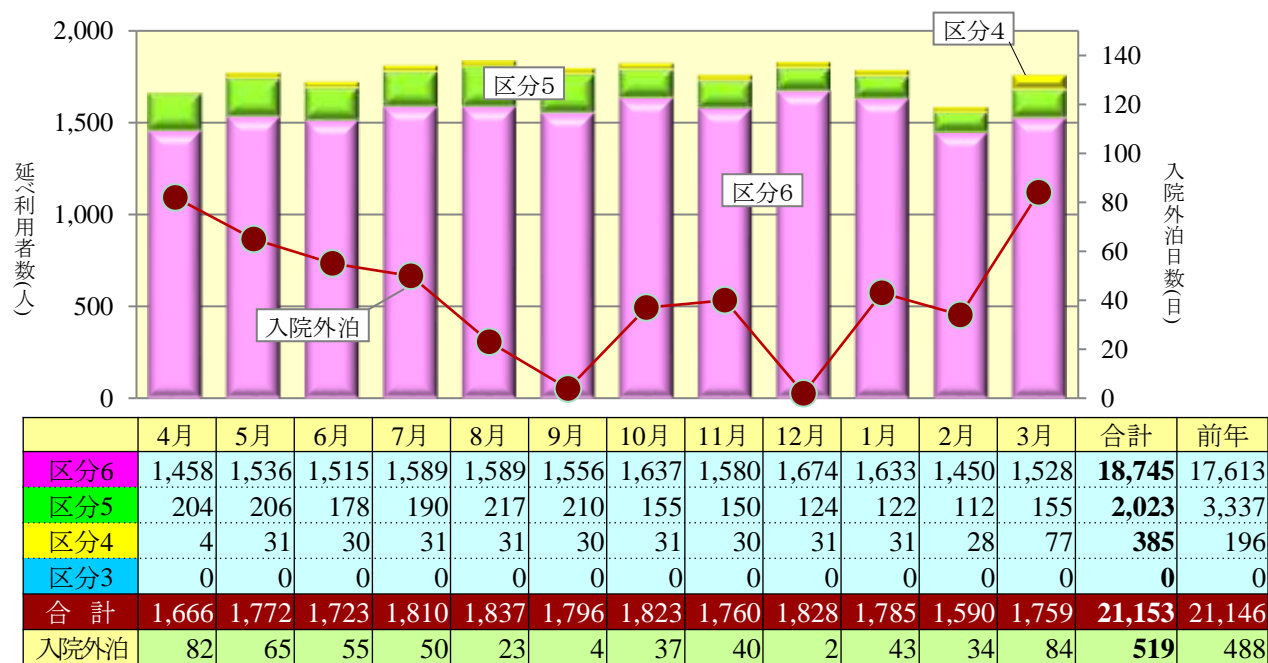


②個別支援

1名の利用者につき個別支援担当職員を1名ないし複数名配置し、利用者の意向を丁寧に把握し、情報を共有することで、より濃密な支援内容の充実がはかれるようになった。

③利用状況

繰り返しの入院や長期入院、また施設へ戻ってこない病状の方も発生し入院日数が462日と前年を上回った。区分の見直しなどにより最重度である区分6の利用日数が前年に比べて1132日増加した。一方で支援量のバランスを鑑み区分4の方の入所をすすめた。



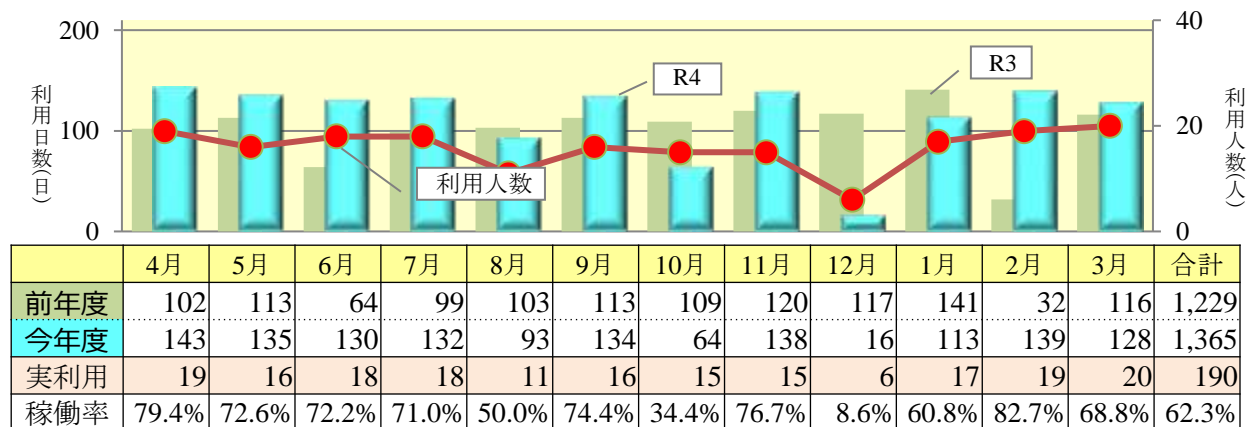
(2) 短期入所の状況 定員6名

登録者38名(前年34名)に対し、実利用32名(前年27名)年間延べ**1,365日**(前年1,229日)のサービス提供を行い、平均ベッド稼働率は**62.3%**(前年56.1%)であった。併設の足柄療護園においてたびたびコロナ感染者が発生し、その間短期入所の受入れを中止したことで、予約数延べ336日がキャンセルとなったことが稼働率低迷の主因である。

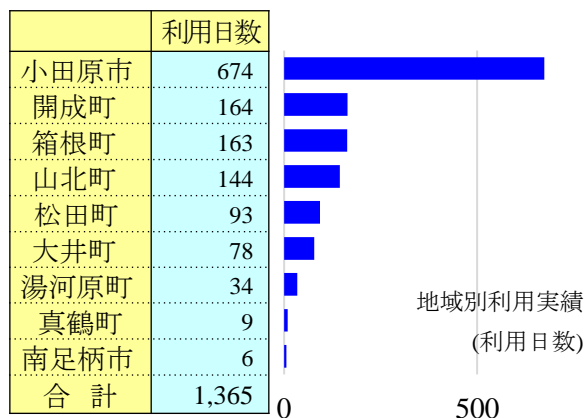
感染対策から原則居室での対応とし、居室配膳やクラブ活動へ参加制限などについて了承を得ながらの利用となった。

①利用者の状況(3.31現在)

A. 利用実績: ベッド稼働率は**62.3%**で、延べ利用日数は1,365日であった。

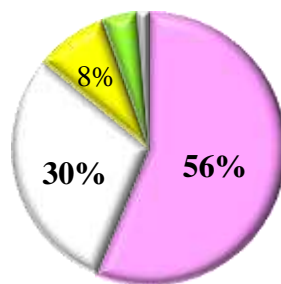


B. 域別利用状況: 小田原市が半数を占める。



C. 障害支援区分別

区分5と6で約86%を占める
平均障害支援区分は5.35
(前年5.35)



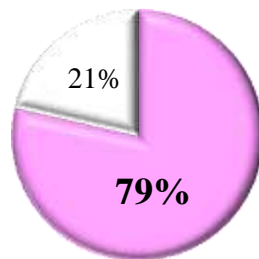
	日数
区分6	768
区分5	406
区分4	116
区分3	56
区分2	19

障害支援区分(利用日数)

②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の補助事業は13年目となり、**20名**(前年23名)の登録、実利用8名の方に対し延べ**176名678日**(前年153名638日)のサービス提供を行った。

また、県からの受託事業である「地域ネットワーク強化事業」において、圏域の関係機関との会議を通じ連携強化をはかった。



	日数
区分6	533
区分5	145
区分4	0
区分3	0
区分2	0

障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラス活動 等

クラブ活動は、感染対策により活動をしぼり、1階と2階の利用者の交流を最小限にとどめながら少人数の参加で実施し、日中活動の充実をはかった。各種大会や作品コンテストにおいても、感染対策を徹底しつつ実施した。なお、感染者が発生した期間は、活動は中止とした。

クラブ名	回数	参加	平均
カラオケクラブ	118	950	8.1
卓上クラブ	49	321	6.6
スポーツクラブ	14	191	13.6
パソコン	26	191	7.3
創作クラブ	11	190	17.3
陶芸クラブ	12	51	4.3
園芸	0	0	
ローリングハレー	0	0	
華道クラブ	0	0	
カーレット	0	0	
音楽同好会	0	0	
合計	324	2,610	8.1

クラブ活動等の実績及び各大会実績

カラオケ大会	
9月22日	参加12名/観客20名
2月9日	参加12名/観客6名
3月23日	参加8名/観客6名
チャンピオンシップは延期	
卓上ゲーム大会	
2月	16名参加
スポーツ大会	
4月27日	ゴロ卓球 参加37名
同日に1階と2階に分かれて開催	
作品コンテスト	
10月5日	応募数163作品
~11月10日	63名の投票により選考



② イベント・余暇活動（アクティビティ）

法人全体で取り組む「秋まつり」は、感染対策から中止とした。季節ごとのイベントは、わくいき委員会を中心に、5企画を開催し、参加者は229名であった。スイカ割、クリスマス会は感染症発生のため中止した。また、しょうぶ湯やゆず湯など日常生活の中で季節感を味わえる企画を実施した。

月	イベント	参加数
7月	七夕飾りつけ	42
9月	花火大会	51
11月	焼き芋会	51
2月	お汁粉会	49
3月	映画上映	36

イベント開催状況

③ その他の活動

施設外活動及び買い物外出：

感染対策から外出を控えていたが、感染者の少ない時期に感染対策を行いつつ少人数・短時間で実施した。施設外活動は、16回で37名が参加し、買い物外出にはシティーモール等へ33回75名が参加した。

施設外大会・発表会への参加：開催中止

“ぶらり外出” “ぶらりランチ”：年間を通して中止

飲酒・喫茶：年間を通して中止

外出先	回数	人数
わんぱくらんど	7	14
フラワーガーデン	6	13
あじさいの里	1	4
お花見	1	3
地球博物館	1	3

施設外活動実施状況

買い物先	回数	人数
シティーモール	23	54
ダイナシティ	5	11
その他買い物	5	10

買い物外出実施状況

6. 県西福祉センター(生活介護・就労継続・通所介護・相談)の状況

4月より新たに介護保険事業の通所介護事業を開始した。休止中であった機能訓練は利用の回復を見込めないことから12月で事業を廃止した。登録者数は75名で前年(76名)並みではあったが、足柄療護園で発生したクラスターによる感染の不安からの利用自粛の影響があったものの、通所介護を含めた利用人数は、**8,057名**(前年6,999名)と前年を**15%**上回った。**1日平均は26.2名**(前年度25.8名)であった。

【生活介護事業】

❖ 営業休止の影響から利用人数が3,096名と落ち込んだ前年度から**36.7%増の4,233名**に回復し、1日平均**13.7名**(前年度11.0名)であった。入退所状況は、新規6名、退所8名であった。

【就労継続支援B型事業】

❖ 利用人数は**2.0%増の3,569名**(前年度3,488名)となったものの、1日平均**11.6名**(前年度12.8名)に留まり、営業休止のあった前年度前には回復できていない。**新規2名、退所2名**であった。

【通所介護事業〔介護保険事業〕】

❖ 開所当初1名であった登録者は5名となった。利用人数は**255名**であり、1日平均**0.8名**であり、1人当たりの利用日数が少なく目標数の半数以下に留まったものの、相談件数は多い。

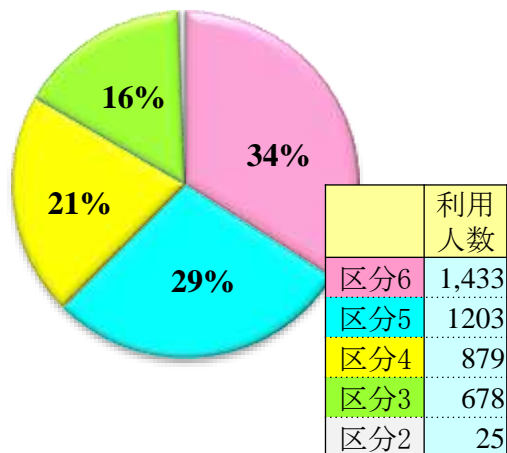
(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/就労継続15名/通所介護30名)

①地域別利用者延べ数(小田原市45%、南足柄市28%)

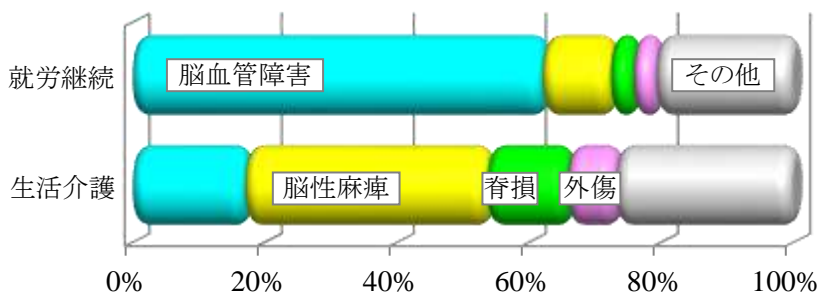
②生活介護利用者障害支援区分

	生活介護	就労継続	通所介護
小田原市	1,781	1,712	2
南足柄市	899	1,316	182
大井町	418	258	
山北町	381	238	
開成町	324	45	
秦野市	219		
松田町	116		71
湯河原町	49		
箱根町	46		
合計	4,218	3,569	255

平均障害支援区分 **4.8**(前年4.8)



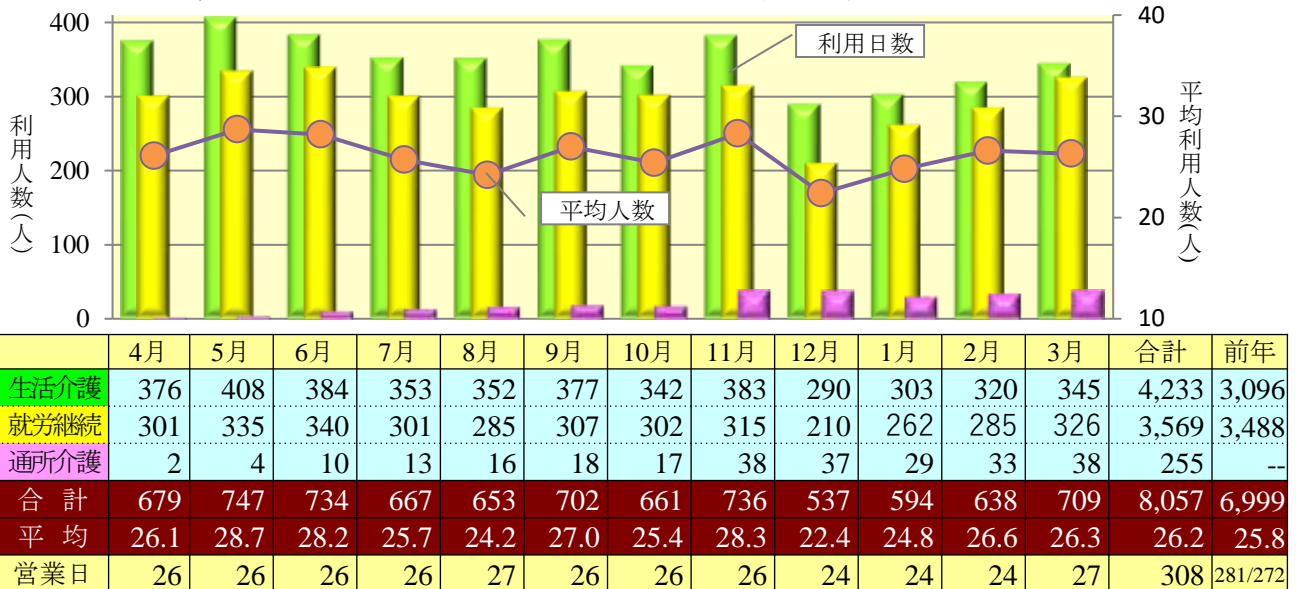
③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活介護	就労継続
脳血管障害	7	18
脳性麻痺	15	3
頭部外傷	5	1
脊髄損傷	3	1
その他	11	6
合計	41	29

(2) 利用状況

前年度は職員退職による土曜日営業の休止や足柄療護園での感染発生に係る営業休止など、営業日数が例年より1割程度減った影響で利用日数が大幅に減少したが、今年度は利用自粛の影響にとどまり利用人数は一昨年度程度まで回復した。



(3) 利用者工賃の支給状況

プレアデス福泉の軽作業との連携をはかり効率化に向けた調整を行ったことにより、平均工賃は月平均 **4,485円**と前年度の4,057円を428円上回った。時給換算では前年の133円を若干上回りの**137.7円**となった。

(4) 日中活動の状況

感染対策により生活介護棟から訓練機器のある足柄療護園への移動を減らすよう、前年度末に生活介護に訓練機器を配置したことにより、訓練の充実と効率化をはかれた。

生活介護では「絵本タイム(4回)」や石垣島とオンラインでつないだ「フラダンス教室(6回)」の活動を実施した。

11月にコロナ発生以来初めて、フラワーガーデンへの外出を行った。



リモートでフラダンス

(5) 相談支援事業

相談件数は合計で60件であった。通所の相談事業所からの相談は介護保険の居宅介護支援事業所からの相談が12件と多かった。相談内容は入浴と機能訓練にかかわる内容が多い。

サービス利用計画作成は全体で53名で、内訳は足柄療護園入所者45名、在宅サービス利用者9名である。

生活介護相談	9件
就労継続相談	10件
通所介護相談	2件
入所相談	20件
短期入所相談	19件

新規利用相談件数

7. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

令和5年度からの生活介護の生駒移転に向けた準備をすすめ、計画通り新年度から多機能型から各事業所の単独事業化を実現することができた。

生活介護及び就労B型の年間利用者数は、前年を大きく下回り**11,584名**(前年12,378名)、1日平均**32.5名**(前年度34.7名)の実績となった。コロナ感染者の発生で生活介護で11日、就労Bは2日の営業中止、またグループホームでの感染発生による感染対応期間に通所施設を利用できない状況があったことが影響した。登録者は57名でスタートし年度末でも**57名**(生活介護23名、就労B34名であった。生活介護利用者の障害支援区分は平均で**5.21**(前年5.17)であった。



プレアデスでは新たにロゴマークを作成した。

【生活介護事業】

❖登録者は23名で変わらず推移したが、8月にはコロナ感染症のクラスター発生に伴い11日間の休業をしたことなどにより、利用人数は前年を212名下回った。生駒への移転を念頭に11月より新たなコンセプトに沿った活動内容、グループ分けを組み立て利用者の不安解消に繋げた。また、職員配置や送迎の見直しを行い、事務作業による残業を減らすことができた。生駒の事業所では3月下旬に内覧会を開催し家族等も含め81名の方が来られた。

【就労継続支援B型事業】

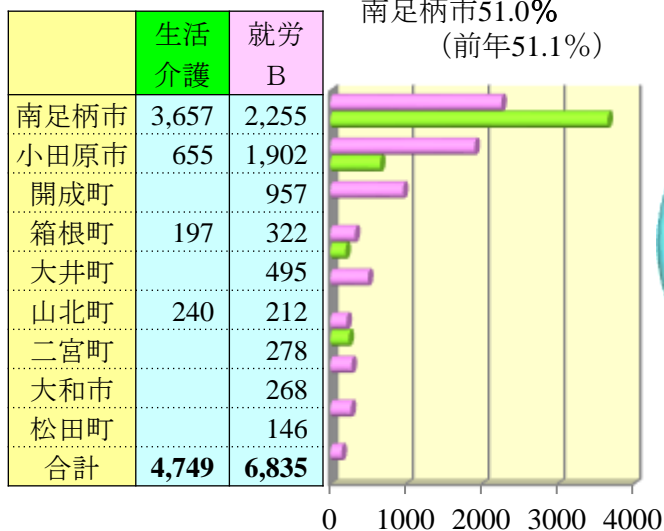
❖登録者は1名減り1名増え開始時と同数の34名となった。利用人数は前年を若干下回った。ふくらの作業を中心軸に軽作業を減らし、職員も利用者もふくらの作業に従事できるよう業務・作業の見直しを行い、作業の効率化と工賃向上をはかった。

【日中一時事業】

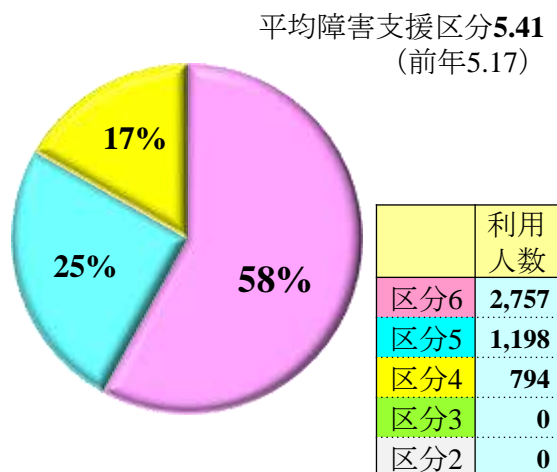
❖15名の登録者に対し、昨年度を若干下回る2,427日(前年2,538日)のサービス提供を行った。サービス提供時間は昨年度に引き続き16時から17時までの短時間の提供とした。新年度の事業所移転に伴う準備をすすめた。

(1) 利用者の状況

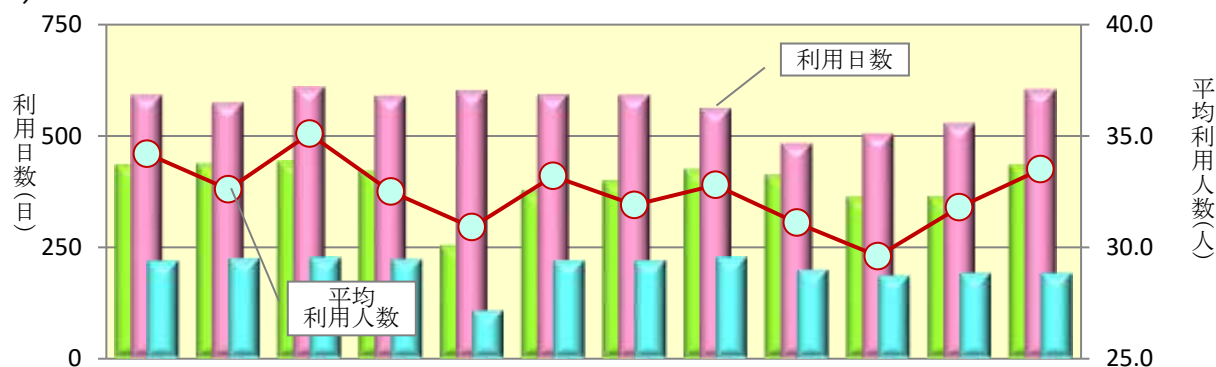
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	434	436	442	419	253	376	398	423	411	361	363	433	4,749	4,961
就労継続	592	575	610	590	602	593	592	562	483	504	528	604	6,835	7,417
合計	1,026	1,011	1,052	1,009	855	969	990	985	894	865	891	1037	11,584	12,378
平均	34.2	32.6	35.1	32.5	30.9	33.2	31.9	32.8	31.1	29.6	31.8	33.5	32.5	34.7
営業日	30	31	30	31	22/31	28/30	31	30	31/27	31/28	28	31	354/358	360/365
日中一時	218	224	226	222	107	220	219	227	198	185	191	190	2,427	2,538

(3) 利用者工賃の支給状況

作業の効率化を観点に、受注作業を減らしふくらんにかかわる自主生産作業従事利用者を増やした。ふくらんの売上が前年を若干上回ったこともあり、プレアデス福泉(就労B型)の平均工賃は全体で11,968円と前年を232円上回った。

今年度	前年度
11,968	11,736

平均工賃実績

(4) 相談支援事業

12件(前年13件)の相談があり1名が利用につながった。養護学校の卒業生、近隣のグループホーム利用の方や自宅に引きこもっている方などから相談があった。継続的にモニタリングを行う計画相談の対象者は13名である。

生活介護相談	5件
就労継続相談	3件
入所・GH相談	4件
その他	0件

(5) 日中活動

生活介護では毎月の創作活動と季節イベント、誕生会を実施した。誕生会では11月より感染対策から中止していたおやつ作りを再開した。

就労B型では、「靴を自分で洗おう」をテーマに利用者参加型の研修会の開催と「自分発表会」を実施した。また、クリスマス、バレンタインイベントを実施した。



クリスマス会〔生活介護〕

(6) 施設外活動

生活介護では利用者のストレス緩和を考慮して、広く人が少ない場所を選定し山北つぶらの公園、フラワーガーデン、大雄山最乗寺と近場ではあるが、施設外活動を行った。



紅葉見学〔生活介護〕

(7) 地域交流

プレアデス、プレアデスホームでは関本、福泉、山崎の自治会に加入し地域自治会のかかわりを継続した。生駒についても、建設にかかわり交流を深め、回覧板等で情報発信を行った。また、生駒開設にあたり近隣約2500戸に事業開始の案内チラシをポスティング配布した。

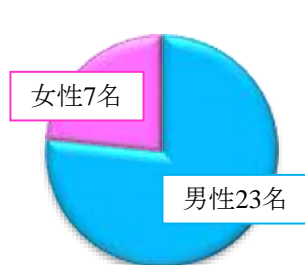
ふくらんでは一部自治会開催の夏祭りへの参加や、いずみ自治会の協力のもと、12月に各家庭に注文書を配布し、個別に配達を行う取り組みを実施し、ふくらん9周年の際は、送迎バスを稼働して来店にご協力いただいた。

8. プレアデスホーム (共同生活援助定員32名)

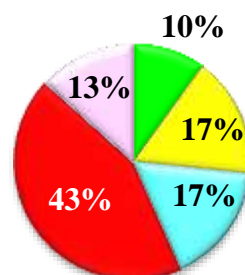
入居利用者は出入りはなく30名で推移した。8月にあまつぼの利用者3名のコロナ陽性が判明し、11月から2月にかけて8名の利用者が陽性となり、感染者発生たびに保健所や神奈川県クラスター班と連携し発生した建物1棟すべてを感染対応するなど感染対応に追われた。

コロナ感染対応で休日の余暇も含めた施設外活動等の企画が延期や中止となることも多く、利用者のストレス軽減を目的に、感染予防に留意しながら、徐々に個人の外出先のエリアを拡大した。

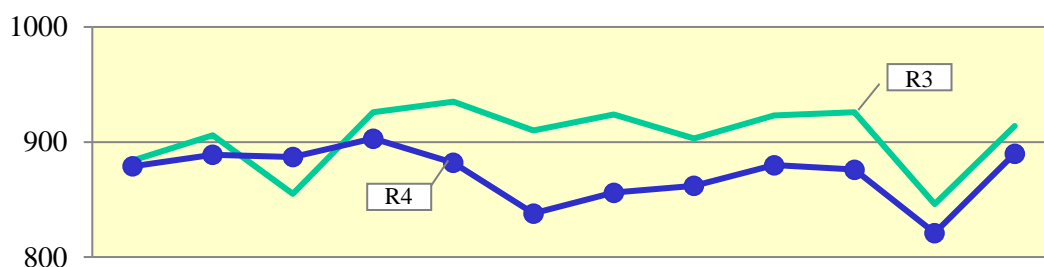
A.入所者の性別及び人数 B.障害支援区分



区分	あまつぼ			やまさき			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
6	1	2	3				1	2	3
5		1	1	3	1	4	3	2	5
4				3	2	5	3	2	5
3	1		1	12		12	13		13
2	1		1	2	1	3	3	1	4
1									



C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	879	889	887	903	882	838	856	862	880	876	821	890	10,463
入院日数	0	13	0	6	5	34	52	17	0	6	0	23	156
外泊日数	21	28	13	21	43	28	22	21	50	48	19	17	331
前年	884	906	855	926	935	910	924	903	923	926	846	914	10,852

感染者数が一時的に落ち着いた9月に9名がズーラシア動物園への外出企画を行った。



9.ふくらん販売状況

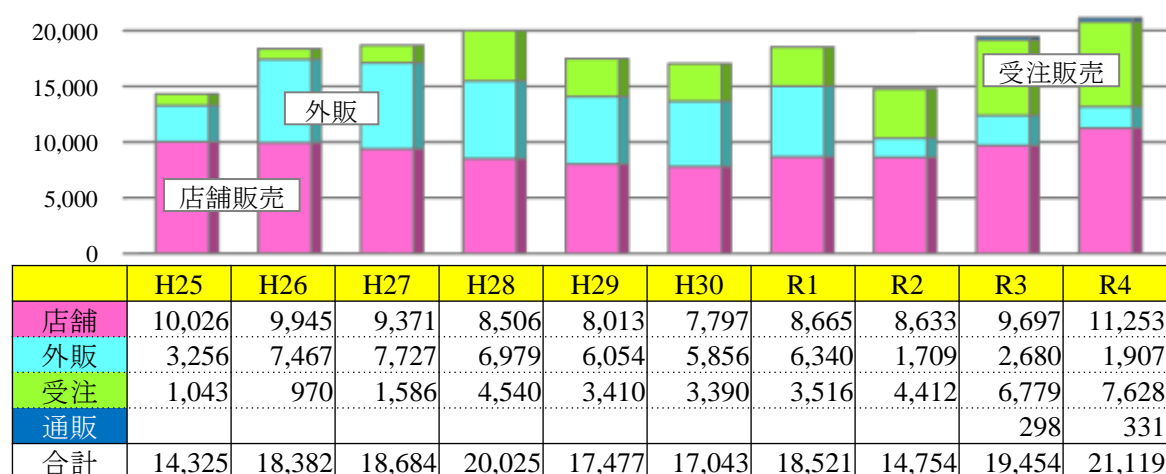
(1) 販売状況

年間の販売実績はテレビでの放映の影響などもあり、**2111万円**で前年の1945万円を**8%上回り**過去最高となった。一方で原材料費高騰により11月に商品の値上げを行ったことも影響があると思われる。しかし原材料や光熱費の高騰により収益構造は厳しく、売上アップを実現しても工賃アップにはつなげることができなかった。

店舗では前年を16%上回る売上を確保でき、納品では薫る野牧場やアマゾンからの注文で前年を上回ったが、外販ではラスカ小田原の出店が1回にとどまり前年を下回った。

新商品として「あん生ダブルシュー」を発売した。また、「プレミアムチョコプリン」を薫る野牛乳に変更リニューアル販売した。以前より手土産などで要望の多かったプリンが12個入るオリジナルのBOXを製作した。

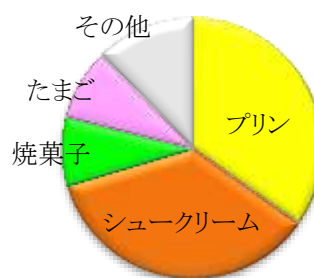
◆年度別販売実績(単位:千円)



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
プリン	4,009	34.79%	19,461	3,309
シュー	4,104	35.62%	16,721	3,245
焼菓子	981	8.51%	3,581	924
たまご	1,019	8.85%	4,192	846
その他	1,409	12.23%	5,005	1,559

※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる



(2) 取り組み

5月にテレビ朝日放映の「帰れマンデー見っけ隊!!」という番組で放映された影響が大きく、売上拡大につながった。特に紹介されたプリンとの問い合わせが多く、年間の構成比でもシュークリームの売上を上回る結果となった。

11月に南足柄小学校2年生21名の社会科見学「課外授業まちたんけん」の受入れを行った。

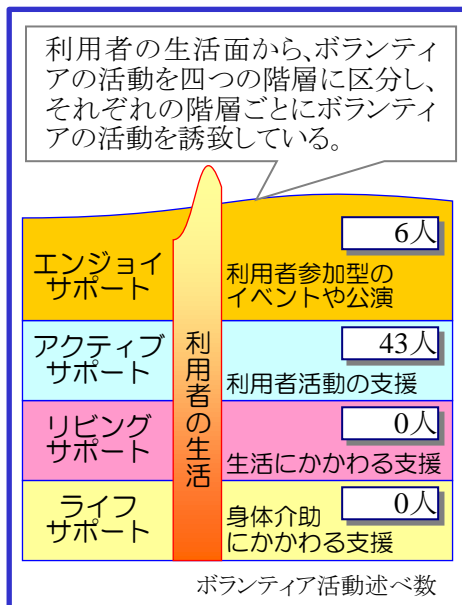
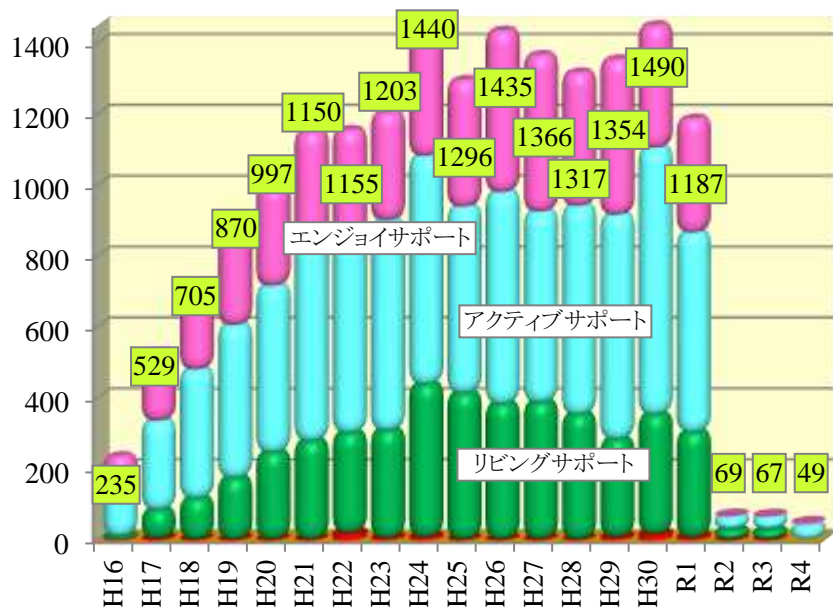


帰れマンデー見っけ隊!!(テレビ朝日)

10. ボランティア活動の状況

(1) ボランティア実績

感染対策として、ほぼ年間を通して利用者と直接かかわるボランティアの受入れを中止した。オンラインを活用した活動などで受入れた**49名**(前年67名)の活動誘致にとどまった。プレアデスにおいては紅葉見学でご家族5名の協力が得られた。



(2) ボランティアイベント開催状況等

感染対策からボランティアの受入れ中止が続いているが、オンラインを活用した「フラダンス」や「絵本タイム」、また、新たに座ったままでも行える「チェアヨガ」を開始した。

催事	参加	様子
絵本タイム とんちゃん	90名 /6回	
フラダンス ロリゲスさん	70名 /5回	

11. 健康管理の状況

(1) コロナウイルス感染対策

コロナウイルス感染状況(感染対応を行ったもの)

感染発生により足柄療護園(短期入所)で3回、プレアデス、プレアデス福泉で1回ずつ事業の中止が発生した。ホームでの発生は、全員が濃厚接触となり外出ができず、通所利用への影響が大きい。

ワクチンについては、9月に4回目、2月に5回目の接種を行った。

事業所	感染対応期間	感染者数		事業休止
		利用者	職員	
足柄療護園	2022/8/9～8/22	2	5	短期利用中止
足柄療護園	2022/10/8～10/24	6	2	短期利用中止
足柄療護園	2022/12/2～12/25	24	14	短期利用中止
プレアデス	2022/8/14～8/21	3	1	8/15～8/21休業
プレアデス福泉	2022/12/24～2023/1/3	4	1	12/28～29休業
プレアデス福泉	2023/2/7～2/11		2	
ホーム[あまつぼ]	2022/8/14～9/2	3	4	
ホーム[リゲル]	2022/11/25～12/5	1		
ホーム[スピカ]	2022/12/6～12/26	2		
ホーム[シリウス]	2022/12/24～2023/1/10	3	1	
ホーム[カペラ]	2022/12/25～2023/1/5	1		
ホーム[シリウス]	2023/1/29～2/8	1		
合計		50	30	

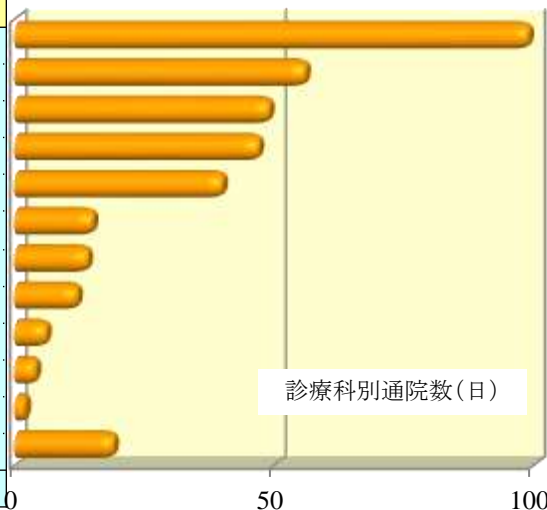
(2) メディカル

足柄療護園で感染者が発生したがワクチン効果や
嘱託医師による薬処方などにより重症化にいたること
なく終息することができた。通院数は年間363件(前
年382件)と減少したが、入院数は長期入院のケース
が見られ、462日(前年433日)と増加した。

	対象者	件数
経管栄養	5	2590
浣腸	29	1270
褥瘡処置	5	611
摘便	1	117
膀胱洗浄	3	72
バルーン交換	3	37
その他	吸引/胃瘻・膀胱瘻処置/ 採血/心電図/ストマケア/ 軟膏処置/眼科処置(点眼)/ ワクチン接種	

入所者の日常的処置実績

通院・入院実績	通院			入院		
	人数	延人数	前年	延人数	日数	前年
歯科	27	99	75			
内科	20	56	84	8	249	249
脳神経外	13	49	52	1	35	8
精神科	9	47	33	1	43	61
神経内科	7	40	37			26
泌尿器科	4	15	11	1	26	
整形・形成	6	14	27	1	60	
皮膚科	4	12	16			40
外科	3	6	3	2	49	34
眼科	2	4	0			
耳鼻科	1	2	6			
その他	11	19	38			15
合計		363	382	14	462	433



(3) リハビリ(訓練等サービス)

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。感染防止の観点から、換気、消毒の徹底及び密集密接を避けたプログラムやオンラインを活用した訓練を実施した。

機能訓練

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。

個別に訓練目標を明確にし、生活に役立つ訓練プログラムの立案し、また自主訓練の方法を提案した。身体機能に合わせた車いすなどの補装具の調整・提案を行った。

音楽療法(月2回実施)

音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などをはかった。

目的別に2つの小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上をはかった。

言語訓練

言語や認知機能に合わせて、意思伝達装置等の導入及び訓練を行った。また、摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の変更等を行った。認知症対応やコミュニケーション能力の向上などを目的とした小グループ訓練を継続実施した。

	利用人数	延べ数	
			前年
言語訓練	45	1,210	1,395
機能訓練	47	1,274	1,384
音楽療法	48	393	341
グループセラピー	8	548	313
合計		3,425	3,433
訪問マッサージ	33	3,449	3,829

※訪問マッサージは、
マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。

12.給食の状況

(1) 食事提供実績

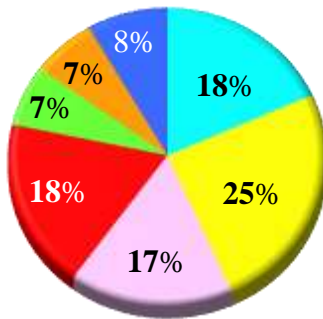
厨房は、足柄療護園とプレアデスホームの2箇所稼働しており、プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供している。給食管理はともに、栄養士業務も含めて日清医療食品㈱に業務委託している。

提供食数は前年度とほぼ同数の**104,721**食であったが、コロナの影響により利用者数減少した短期入所やプレアデスでは減少した。

食数	
朝食	30,722
昼食	43,108
夕食	30,891
合計	104,721
施設	58,041
短期入所	2,373
県西福祉C	7,854
プレアデス	10,821
ホーム	22,267
職員他	3,365

4月～3月 給食提供実績

① 食事の提供形態;入所者の常食は18%(前年19%)



入所者の食事形態

	入所	県西	プレ
常食	11	60	56
一口大	15	6	3
1cm大	10	2	5
きざみ	11	2	1
超きざみ	4	1	0
ミキサー	4	4	0
経管栄養	5	0	0
合計	60	75	65

3.31現在

② 栄養量

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1,599 k ^{カロリ}	1,954 k ^{カロリ}
たんぱく質	61.1 g ^{グラム}	67.8 g ^{グラム}
脂質	47.2 g ^{グラム}	51.7 g ^{グラム}
カルシウム	551m ^{グラム}	610m ^{グラム}
塩分	7.0 g ^{グラム}	7.2 g ^{グラム}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

ひとり当たりの1日の給食にかかわる費用は**1,974円**(前年2,030円)となった。

	令和4年度	令和3年度
業務委託費	37,884 千円	39,138 千円
食材費	33,477 千円	33,716 千円
給食費合計	71,361 千円	72,854 千円
1食当	700 円	700 円
1日当	1,974 円	2,030 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2)食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「お誕生日メニュー」やイベントによる食事提供を行った。

4月7日	お花見弁当
5月5日	かつおのたたき
6月16日	紫陽花弁当
7月7日	七夕そうめん

8月2日	冷やし中華
9月10日	お月見丼
10月31日	ハロウィンデザート
11月6日	ねぎとろ丼

12月25日	クリスマスメニュー
1月1日	おせち
2月3日	恵方巻
3月3日	ひな祭りメニュー

(3)給食検討会

調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を行っている給食検討会は、感染対策から開催を見送った。利用者、職員等からの要望は随時受付し、施設長、栄養士が情報収集を行った。

(4)食のあり方検討会

年3回「食のあり方検討会」を開催し、個人に適した食形態の提供と摂食嚥下機能の評価をもとに安全な食事の提供を行った。「食事観察依頼書(48件)」「食事観察経過評価用紙(2件)」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。また、補助栄養を活用し、高齢化に伴う低栄養状態の予防に努めた

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

あまつぼホーム近隣の方(匿名)より夜間騒音の注意があり、防音対策を実施した。

(2) K-フレンズの活動 ※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク (身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

感染対策から訪問件数を減らし、年7回来園いただき、利用者から**16件の相談**を受け、施設への報告のもと適切に対処した。〔足柄療護園〕

(3) KWネットの活動 ※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク (県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の訪問相談を実施した。コロナ対策で開催日を調整しながら実施し、計**16件**の相談があった。内容としては親亡き後の将来の不安が多く見受けられた。〔プレアデス〕

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者**1名1項目**(前年4名5項目)、短期入所利用者1名1項目(前年1名1項目)**合計2項目**が身体拘束・行動制限に該当している。 **3名5項目**について解除することができた。

拘束内容	目的	件数
居室施錠	安全管理	1
両手ベルト	抜去防止	1

身体拘束状況

なお、感染症拡大防止のための感染者対応として、行動制限を行った事例があった。

(5) 成年後見制度等利用の推進

足柄療護園入所者60名のうち、**26名**(前年度22名)が制度を利用している。プレアデスホーム利用者30名のうち後見制度利用は**11名**となり、社協の安心サービス利用は**5名**となっている。

(6) 人権チェック調査結果

12月に職員に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『**人権チェック**』調査を実施した(回答105名)。

令和3年の調査結果と比較すると、半数以上の項目で評価が下がった。最も評価の低かった項目は、昨年に続き『利用者へのサービス提供に関する悩みをもち続けている』という内容であった。評価が下がった項目に『利用者とのかかわり』の項目が上位にあることから、調査結果を踏まえ各部署において人権意識の向上に努めるよう周知した。

評価の低かった項目

- 最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みをもち続けている
- 他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。
- 利用者の年齢にふさわしい接し方をしている

昨年に比べて評価の下がった項目

- 利用者のさん付けが徹底できている。
- 利用者への対応、受け答え、あいさつ等は、丁寧に行うよう日々心がけている。
- 利用者に対して、わかりやすいことば・表現で説明をしている。

昨年に比べて評価の上がった項目

- 対応に困難が生じた事柄ややむを得ず不適切な対応を行ってしまった内容も記録している。
- 障害者差別禁止法を知っていますか？
- 命令調になったり、大声で叱責したりしてしまうことがある。

14.安全管理の状況

(1) 防災

各事業所共に防災計画に基づき、避難訓練を実施した。

福祉避難所の協定を結んでいる南足柄市より、サポート事業を活用し、福祉避難所用の非常食を購入した。

月日	内容	
6月22日	総合訓練	居住棟、1F介護センターより出火を想定した避難訓練、通報、業者との消火訓練を内容とした総合訓練を実施。
9月28日	部分訓練	管理棟1階事務所より出火を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練等総合訓練を実施。
1月26日	総合訓練	居住棟、2F娛樂室より、出火を想定した避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。(コロナ蔓延により、12月分を1月に実施。)
3月29日	総合訓練	3Fより、夜間出火を想定した避難訓練、通報訓練、を実施。

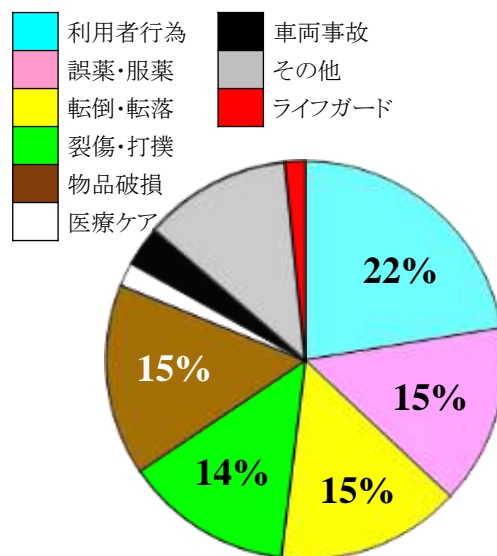
足柄療護園 避難訓練等実施実績

(2) リスクマネジメント (事故報告)

リスクマネジメント報告書による**事故件数は305件**で前年の303件とほぼ同数であった。事業所別では足柄療護園が**149件**(前年193件)でもっとも多いが、プレアデスでも**145件**(前年92%)と増加した。内容別では、部署により違いが見られ、足柄療護園では**誤薬・服薬**が最も多く**22%**、プレアデスでは、「施設からの無断外出による所在不明」などの利用者行為によるものが**61件**で**42%**を占める。**救急車による搬送**を必要とした大きな事例(ライフガード)が**5件**(転倒や体調不良などによる救急車搬送)と多く発生した。

	足柄療護園	県西福祉C	プレアデス	合計	
利用者行為	8		61	69	22.6%
誤薬服薬	33		12	45	14.8%
転倒転落	25	6	15	46	15.1%
裂傷打撲	26		16	42	13.8%
物品破損	23		22	45	14.8%
医療	5		1	6	2.0%
車両事故		3	7	10	3.3%
その他	24	2	11	37	12.1%
ライフガード	5			5	1.6%
合計	149	11	145	305	
	48.9%	3.6%	47.5%		

リスクマネジメント報告書内容(その他事業所を除く)



事故種別状況

(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤットと共有書によるインシデントの件数は**1年間で239件**と前年の208件を上回った。

内訳では、車いすから落ちそうになっていたなどの転倒/転落が最も多く**82件**(前年53件)、薬の飲み忘れなど服薬にかかわる内容は**47件**(前年52件)、自力による移乗などの利用者行為にかかわる内容が**33件**(前年17件)であった。

部署別では、足柄療護園が**234件**(前年184件)と**70%**を占めた。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりやプレアデス祭を中止としたため、地域の方々と交流する機会を逸した。ふくらんでは、駒形新宿自治会夏祭り、日向自治会の公民館まつりへの出店、いずみ自治会と連携し、9周年セール送迎車手配や注文販売をおこなった。

(2) 利用者講演

コロナ発生以来初めて小田原短期大学でリアルでの利用者講演が実現した。その他の学校ではオンライン授業で行った。

見学が再開し講演機会が徐々に回復し、13名の利用者が、年13回〔受講者409名〕の講演を行った。

月 日	依頼元	対象者	参加者
2022.7.20	国際医療福祉大学 成田	言語聴覚学科3年生	30
2022.9.22	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	30
2022.9.26	国際医療福祉大学 大田原	言語聴覚学科3年生	30
2022.11.7	小田原短期大学	保育学科1年生	120
2022.12.1	中央医療健康大学校	理学療法学科 1年生	42

主な利用者講演実績(講演先一覧) ※見学は除く



リモートでの利用者講演



リアルでの講演再開

16. 広報の状況

(1) 広報誌「やまぶき」の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。例年通り3回の発行を行った。主に利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政、関連機関等へ約500部印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
78号	4月30日	令和4年度事業計画 各事業所ニュース 他
79号	7月31日	令和3年度事業報告 各事業所ニュース 他
80号	1月1日	新年のあいさつ 各事業所ニュース 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ&SNS

県西福祉会のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを活動やイベントを中心に随時更新した。ふくらんについては専用のホームページやフェイスブック(“いいね!”は1,528)、インスタグラム(フォロワー1,634人)、さらにツイッター(フォロワー311人)を新たに活用し、認知力向上につとめた。

17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受入れ

実習受入実績

足柄療護園では言語聴覚士の実習、プレアデスでは、小田原短大3名、鎌倉女子短大1名の保育実習などを受入れた。また、表とは別に県西福祉センター、プレアデスにて養護学校生徒の体験実習を受け入れた。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	5/23～7/2(6週間)
プ	保育実習	鎌倉女子短期大学	1	8/4～8/17(11日間)
プ	保育実習	小田原短期大学	3	8/8～9/2(各10日間)
プ	施設見学	七沢学園 (高校1～3年債)	7	8/15 卒園先の進路先見学

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は41家族。5月の総会は書面決議で実施し、恒例の親睦パーティーは中止した。(令和4年度会長:稲本浩美氏)

プレアデスでは、恒例のご家族合同バーベキューは中止した。プレアデスホームでは、年末大掃除にご家族・後見人等の関係者に協力頂き、各個人の居室を本人と一緒に清掃していただいた。紅葉見学では家族の付き添いボランティアの協力を得た。

(4) 施設見学

足柄療護園では見学希望が多いことから、感染拡大期間を除き見学の受入れを行った。9団体199名の来園があった。

見学にあたっては、施設内の見学は行わず、3階ホールで施設紹介、利用者講演等を行うにとどめた。

年月日	団体名	来園者
2022.9.16	伊勢原市北地区民児協	22
2022.9.21	藤沢市明治地区社協	21
2022.9.27	茅ヶ崎市民児協 障害部会	24
2022.9.29	愛知県安城市桜井地区民児協	18
2022.10.17	調布市第三地区民児協	23
2022.10.17	横浜市港北区城郷地区民児協	15
2022.12.1	中央医療健康大学校 理学療法学科1年生	42
2023.1.31	埼玉県 権利擁護委員協議会 入間東部部会	19
2023.3.8	山梨県南都留郡忍野村民児協	15
合計	9団体	199

18. 施設整備等

介護ロボット等整備〔足柄療護園〕

居住者の高齢化や障害の重度化に伴い、神奈川県 of ロボット等導入補助金を活用し、「電動立位支援リフト1台」「床走行式電動介護リフト2台」を購入した。(全額補助金額143万円)

施設整備〔プレアデス〕

神奈川県 of 施設整備補助金を活用し、プレアデス生駒事業所の新築整備を行った。(建築費総額9,650万円うち補助金額5,805万円)



介護ロボット等の整備

見学受入実績

令和4年度 部門別重点実施事項 実施報告

足柄療護園	年度重点実施事項	実施結果	
コロナ過における日中活動の充実	わくいき委員会主導で、感染対策を継続しながら、日中活動の実施やイベントの検討を行い実施していく。	4	フロア別や小グループで実施し、個々に対する支援の質を維持できた。感染対応後の活動についてもわくいき委員会を中心に検討をすることができた。
就労作業の内容を見直し工賃向上への取組強化			
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援計画書を中心とした支援の中で、役割などの支援計画の策定を行い、その人らしい生活が送れるように支援を行う。	3	個別支援計画は、職員の意向も確認し、担当する利用者に対して責任をもって臨めるようにした。それによりより支援へとつなげることができた。
災害時の安心の確保	各種災害に対応した、BCPや対応マニュアルをより実践的なものとし、災害後も継続的に施設運営が行えるように整備する。	2	BCPや災害対応マニュアルの再検討には至らないものの、日々の感染対応の周知や実践が、マニュアル化につながり、周知・対応可能な状況までできている。
組織体制の強化	安定した施設運営のための職員の定着・維持を行う。さくさく委員会を中心に外国人労働者の受入れの実施を行う。	4	外国人技能実習生の受入についても対応方法や日々の状況把握を行い、スムーズな受け入れができており、勤務の定着へと至った。
権利擁護意識の向上	権利擁護意識の向上を行い、職員同士のチェック体制を確立していく。身体拘束ゼロに向けた取り組みを継続する。	4	拘束ゼロへ向けた取り組みにより、徐々に廃止に向けて動くことができた。新たに後見制度利用をについてのフォローを行うなどした。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	コロナ禍でも研修に参加できるようにリモートなどの手法を取り入れ、知識の習得の場を提供し、職員個々の能力向上をはかる。	2	リモートでの参加を促すようにしたが、研修に参加する意識は高まらなかった。
地域サービスの充実と運営の安定	短期入所者の新規利用者の確保と利用登録者の利用促進をはかる。医療ケア等の対応のため、喀痰吸引「特定」対応職員の育成を行う。	4	短期入所者の医療ケア研修を行い、職員の対応工場から、利用促進につながるよう対応した。新規利用の掘り起こしを行うなどした。
通所事業内容の検討	あんしんネットについて行政と連携をはかり今後のあり方を検討する。65歳以上の継続利用について共生型サービスを検討する。	3	あんしんネットについて市町村・県との連携、協議を回りサポート事業となった。65歳以上が対象となる共生型サービスはニーズが少なく実施に至らなかった。
障害者福祉の啓発	施設視察の受入れは感染状況を確認しながら行う。大学・専門学校・高校生とのつながり方について検討する。	2	リモートなどを使いながら視察や見学、利用者の講演活動を行った。学生ボランティアの受入など徐々に再開したが実習の受入はできなかった。
教育機関及び地域との連携強化	感染対策を行いつつボランティアの受入れを判断する。地域や教育機関との連携強化をはかる。	2	ボランティア活動については、リモートなど直接会わないで実施する方法を行うなどし、学生ボランティアの再開などをしていった。教育機関との連携までは至らなかった。

県西福祉センター	年度重点実施事項	実施結果	
コロナ過における日中活動の充実	生活介護棟でも訓練を実施できるように仕組みを作る。感染対策を行いつつ実施可能な新たな日中活動を検討し実施する。	4	生活介護にて感染対策を行いながら、季節に沿った創作活動を行ってきた。機能訓練は生活介護棟で行えるよう体制を整え入れた。
就労作業の内容を見直し工賃向上への取組強化	プレアデスとの作業受注窓口を一本化する。作業内容を見直し職員業務の軽減と効率化をはかる。	3	プレアデスとの作業受注窓口を一本化し、職員業務の軽減と効率化をはかった。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援に沿って個々の活動を明確化し強化する。オンラインを活用するなど、利用者講演活動に意欲的に取り組めるように支援する。	4	個々のニーズ、障害特性に添った支援を提供してきた。定期的にモニタリングを実施し個別支援計画に反映させた。オンラインでの利用者講演活動を支援してきた。
災害時の安心の確保	災害対策マニュアルを検証するとともに、感染症発生時も含めた事業継続計画(BCP)の策定と訓練実施方法の検討を行う。	3	災害対策マニュアルを検証し事業継続計画(BCP)の策定と訓練実施方法を検討してきた。
組織体制の強化	ICTの活用により感染対策を徹底する。共生型通所介護サービスの開始にともない各事業の体制を強化する。	4	ICTの活用を積極的に取り入れた。共生型通所介護開始にともない、各事業の特徴を活かし事業運営を行ってきた。
権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。権利擁護研修に参加し利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	3	今年度より開所した、あしがら後見センターの会議に参加し成年後見制度について知識を高めた。また、職員研修に参加し知識向上に努めた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加できるように体制を整え、専門知識・マネジメント力を強化する。各職員の役割を強化し支援員の能力向上を行う。	3	人員不足により、職員研修に参加調整ができなかったが、後日ビデオでの参加に努めた。
地域サービスの充実と運営の安定	共生型通所介護事業の開始し65歳を超えても継続して利用できるように案内する。新規利用者受入れを強化し年間利用者延べ人数9000名を目指す。	3	共生型通所介護にて5名の新規利用が開始した。そのうち1名は65歳になり生活介護から通所介護へ移行した。年間延べ利用者数は8,057名と目標には届かなかったが前年度より1,064名増となった。
通所事業内容の検討	共生型通所介護のサービス内容を構築すると共に、積極的に事業案内を発信し、利用促進を図る。	3	共生型通所介護のサービス内容を構築し積極的に居宅介護事業所に事業案内を発信し、利用促進を図った。
障害者福祉の啓発	SNSなどを活用して情報発信する仕組みをつくる。養護学校・特別支援級の体験受入れを行う。	3	実習生2名の受入れの予定であったが、入所のコロナウイルス罹患で1名が中止となった。また、実習は中止となったが後日、見学にて対応を行った。
教育機関及び地域との連携強化	地域の関係機関と定期的に情報交換を行い、ニーズに合わせた連携強化をはかる。災害時の地域連携を検討する。	3	必要に応じてオンラインでの外部会議の参加や情報交換を行い関係機関と連携をとった。

令和4年度 部門別重点実施事項 実施報告

ブリアデス	年度重点実施事項	実施結果
コロナ禍における 日中活動の充実	感染対策に配慮しながら自粛生活によるストレスを発散できる活動・レクリエーション・行事を検討して行く。	4 感染症対策を行いながら、家族ボラと紅葉見学等、再開した。また、クリスマス会、バレンタイン、自分発表会など利用者が主体的に参加できるイベントにした。
就労作業の内容を見直し 工賃向上への取組強化	工賃の見直しを行い新たな作業体系を構築すると共に、受注作業については県西福祉センターとの連携を密にして効果的に進めて行く。	3 利用者の軽作業を段階的にふくらんへ移行し、年度末には7割程度達成した。受注作業は県西福祉センターと連携したが、工賃体系の見直しには至らなかった。
その人らしさを引き出す 役割支援の強化	意思決定支援を意識した個別支援の実施と共に、給食当番、清掃等日常生活の中で利用者が活躍できる体制を整える。	4 意思決定支援を反映した個別支援計画の様式を見直した。給食当番、清掃、洗濯、物品管理など個々の利用者の思いやストレスに着眼した。体制を整えた。
災害時の安心の 確保	事業所移転を意識した各事業所での災害時での地域連携を想定した災害BCPの作成を進めていく。	4 生活介護事業所の移転先のハザードマップ確認と現地にて避難経路の下見を実施、消防署と連携を取りながら移転に伴う消防・防災計画の作成を行った。
組織体制の強化	業務内容の抜本的見直しを行い残業の減少、宿直体制の見直しを継続して行っていく。また、ノー残業ディの実施定着に取り組む。	3 生活介護では事務作業による月平均残業を3時間以下に減らせたが、宿直体制の見直しや、就労Bでは抜本的な残業の軽減には至らなかった。
権利擁護意識の 向上	権利擁護への意識を持つ為に、各事業所事の権利擁護に関する月間目標を定め実施していく。また行動障害を抱える利用者の行動原理の把握。	4 中井やまゆり園の虐待事案に対する報告書を部署内で閲覧、会議にて内容の確認と意見交換を行った。
専門的知識の習得と マネジメント力の 向上	ブリアデス全体で勤務協力をしながら、多くの職員が外部研修への参加が出来る様に検討して行く。※強度行動障害者支援研修等	4 強度行動障害者支援初任者研修に2名参加、県社協主催の新任支援員研修に1名参加、新任職員の人材研修に1名参加、相談支援従事者現任研修に1名参加。
地域サービスの 充実と運営の安定	各事業所単独化に向けての準備と定員増を見据えた教育機関や相談支援事業所との連携を強化し新規利用者の受け入れを積極的に行う。	4 ブリアデス給所に向けて3日間の内覧会を実施、その他、送迎や給食の配送システムの変更を行った。また、就Bではふくらん作業中心への移行の説明を行った。
通所事業内容の検討	単独事業所ごとの新たなコンセプトの検討と移転後を見越した送迎サービスの見直しを行う。	4 新規事業所では「グループホーム入居準備」を新コンセプトとし、4月からの事業開始に備えた。
障害者福祉の啓発	地域の教育機関からの職場見学・体験の受け入れを行うと共に、SNSを積極的に活用し施設活動内容を地域に広めていく。	4 小田原短大、鎌倉女子大等の保育実習や南足柄小学校の職場見学、小田原支援学校の職場体験受け入れた。また、Facebookを活用し、活動等の配信をした。
教育機関及び 地域との連携強化	移転先での新たな地域連携を検討しながら、ふくらん商品に関しては「地産地消」を今以上に意識し地元の生産者や販売先との連携を深める。	4 新規事業所開設に係る自治会、周辺住民への挨拶や、相談支援事業所等、内覧会の案内や情報交換を行った。また、ふくらんでは積極的に地元の外販へ出店した。
ブリアデスホーム	年度重点実施事項	実施結果
コロナ禍における 日中活動の充実	外出自粛など、コロナ禍における個別支援を組立て充実を図るため、ホーム内において、少人数や個別に充実した過ごし方を再検討する。	4 居室や共有スペースを利用し、密にならない程度で個別に余暇支援を行った。外出では、感染対策を意識しながら買物や散歩などの機会を増やす支援を行った。
就労作業の内容を見直し 工賃向上への取組強化	コロナ対策の中で、感染に留意しながら通勤し、徐々に戻りつつある出勤日数、時間を継続的に出勤出来る様、個別に支援していく。	4 コロナに罹患した利用者の看護、濃厚接触者の対応を続ける中、一般就労されている利用者は、通常の出勤日数や出勤時間に戻り、職場復帰できるよう支援した。
その人らしさを引き出す 役割支援の強化	コロナ禍においても、ホーム内で充実した生活が送れるような新たな生活様式を本人と共に組み立てていく。	4 コロナ禍で、思う様な生活が出来ないが、個別に行いたいニーズを引き出し、ホーム内でできるよう支援した。外出等のサポートは、個別の支援を行った。
災害時の安心の 確保	感染予防対策を意識した生活を心がけ、ホーム内においても環境作りを設定し、GHのコロナ感染予防ガイドラインの整備を実施していく。	4 感染対策ガイドラインを整備したが、実際には罹患者が発生した際に修正を加えながら感染対応した。その為、個々の対応も変化する事が課題として見えてきた。
組織体制の強化	GH専従職員増により、GH利用者支援体制の強化を図る。また、GH会議を毎月実施していき、GH運営と組織体制の強化を図る。	4 GH専属職員の体制が確立する中で、更に迅速な対応を心掛け、コロナ禍でのストレスを増幅しないよう調整、運営を図った。世話人会議は毎月行えた。
権利擁護意識の 向上	自己決定を尊重した個々のGH生活を送れるよう権利擁護の理解を深めていく。また、後見人制度利用促進に向け、利用者、ご家族に説明する。	4 利用者支援は日常生活での要望や金銭管理、個々のニーズへの対応など、主体的に自己決定が尊重される支援方針に組立てた。特に世話人の対応を強化した。
専門的知識の習得と マネジメント力の 向上	世話人・GH専従職員を対象に、感染拡大防止の為、コロナ感染時、または疑い時における利用者支援体制のシミュレーションを行う。また、世話人対象の研修への参加を啓発していく。	4 個々に利用者への接し方やコミュニケーション方法など障害特性に合った接し方や会話について指導した。また人権研修では発達障害、自閉症の特性への理解について、ビデオ研修会を全員行なった。
地域サービスの 充実と運営の安定	各地域におけるGH利用者を受け入れ、地域生活実現のため、行政、相談機関等の関係機関と連携強化し、地域サービスの向上に努める。	4 GH入居希望の新規相談を積極的に受け入れ、見学、面談を行った。また相談支援事業所等と相談支援を継続し、GH体験利用に繋がったケースもあった。
通所事業内容の検討	ブリアデス新事業体系に向けた準備段階に伴い、GH事業との連携の見直しを図り、開設に向けた移転準備を行っていく。	4 ブリアデス移転に向けて体制の見直しを図り、特にあまつほホームは力を入れた。食事面においては、厨房との連携が必要であり、配食体制の見直しを図った。
障害者福祉の啓発	コロナ禍においてもICT活用し、GH利用希望者、ご家族、各関係機関の要望に応じた共同生活援助サービスについて理解を深めていく。	4 相談・教育・医療機関、行政、自治会等へ障害者福祉の啓発により、共同生活援助の理解を深め、家族から相談も多く、GH体験利用へと繋がるケースもあった。
教育機関及び 地域との連携強化	コロナ禍においてもICT活用し、各関係機関と連携を維持し、GH利用者拡大に繋げる。また、利用者のGH生活の質を維持、向上を図る。	4 感染対策を講じながら地域との連携を維持し、GH利用拡大に向け店舗を強化した。近隣の買物等、個別に自立できるよう店舗と連携を図る等の支援も行なった。

令和4年度 事業報告

